

市学力テストを実施

「学力の伸びを把握することにも、小中の連携を深めます」

市教育委員会は、平成29年4月に実施した「全国学力・学習状況調査」と市独自の学力調査「確かな学力の伸長を図るための調査」の結果を、市全体及び学校ごとにまとめ、平成29年10月に公表しました。今号では、現在取り組んでいる「国語」に注目し、「学力の定着状況」と「学力の伸び」についてお知らせします。

《実施内容》

- ①全国学力・学習状況調査
- 【対象】小学校第6学年・中学校第3学年
- 【教科】国語A(知識・B(活用)▼算数・数学A(知識・B(活用)
- ②確かな学力の伸長を図るための調査
- 【対象】小学校第3学年・第5学年、中学校第1学年・第3学年

《学力の定着状況》

小学校国語A(知識)に関する問題は、平均正答率が1・2ポイント全国平均を上回り、東京都と並んだ。また、国語B(活用)は全国平均を0・5ポイント下回っている。平均正答率(全国)未満の児童の割合は、国語A(活用)で0・9ポイント少なかった。中学校国語A(知識)に関する問題は、平均正答率が0・4ポイント下回った。また、平均正答率(全国)未満の児童の割合は、国語A

(活用)で0・5ポイント少なかった。このことから、本市の国語の学力はおおむね順調に向上しているが、さらに取り組みを進める必要があることが分かった。

《学力の伸び》

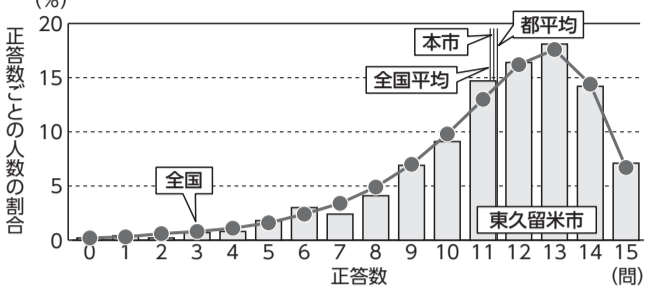
平成29年度の中学校第1学年については、全国平均値と比較して平成27年度と同様の結果で、横ばいであった。また、平成29年度の中学校第3学年については、全国平均値と比較して2ポイント下降していた。

《全国学力・学習状況調査(国語A)正答数の分布》

小学校

	本市	全国	東京都
平均正答数	11.3/15	11.2/15	11.4/15
平均正答率	76.0	74.8	76.0

平均正答率(全国)未満の生徒の割合(%)
 本市44.2%
 全国45.1%
 東京都39.8%



中学校

	本市	全国	東京都
平均正答数	24.7/32	24.8/32	25.2/32
平均正答率	77.0	77.4	79.0

平均正答率(全国)未満の生徒の割合(%)
 本市37.5%
 全国38.0%
 東京都34.7%



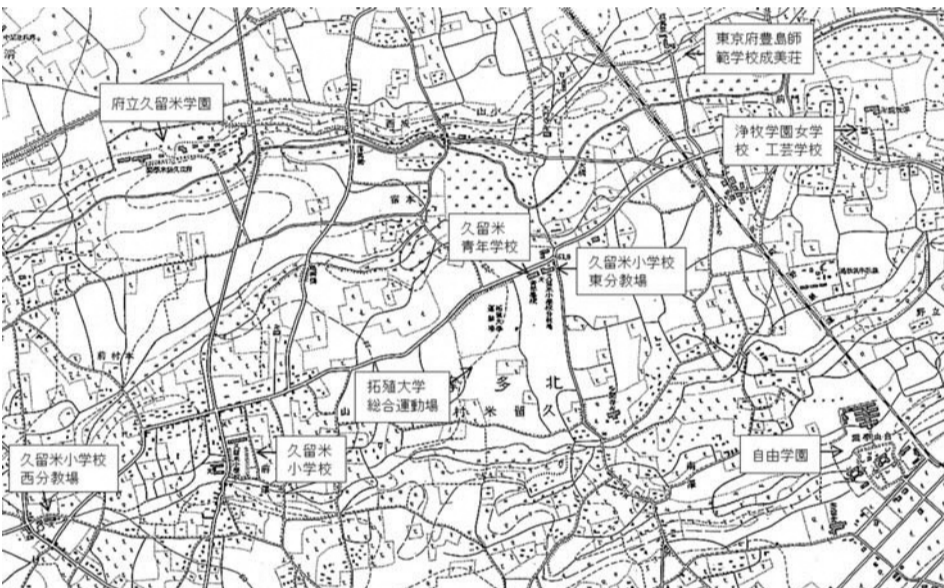
《今後の取り組み》

市教育委員会は、「小学校低・中学年修了時及び卒業時並びに中学校第2学年修了時学習定着度調査(学習定着度調査)」を行います。

《調査対象》

市立小学校第2学年・第4学年・第6学年、中学校第2学年全員
 詳しくは指導室 ☎470・7781へ。

←地図1 久留米市の昭和初期教育施設 地図は「大正・昭和 東京周辺1万分1地形図集成」京葉・京浜・多摩地区(柏書房)の一部を許可を得て使用し、教育施設名を挿入しました。



シリーズ

東久留米の学校史

その6

新しい教育の風1

昭和3年(1928年)の久留米小学校新築や西分教場と東分教場の整備により、村の初等教育は大変充実したものとりました。

この時期は、大正8年(1919年)の大学校令の施行により小学校から大学までの日本の教育制度がほぼ整った時代とも重なり、さらに大正デモクラシーに代表される民主・自由化も教育に影響を及ぼし、新しい私立学校の設立

や女子教育の充実が重視されるようになり、大正自由教育運動とも呼ばれます。そして、この新しい教育の風は、昭和初期には久留米村にも及び、村の教育環境は大きく姿を変えていきます。

《昭和初期の教育施設》

昭和4年(1929年)、門前(現大門町一丁目)の浄牧院内に久留米村で初めての私立学校である浄牧学園女学校が開校されました。さらに昭和5年から9年にかけて私立自由学園が雑司ヶ谷(現豊島区)から南沢(現学園町一丁目)に移転し、広大な敷地をもつ学校が誕生しました。また、昭和7年(1932年)には南沢(現中央町一丁目)に1万6千坪の拓殖大学総合運動場が造られました。

一方、公立学校施設も久留米村に次々に設置されます。昭和10年(1935年)に前沢の小学校内に久留米青年学校(同12年、東京府に移管)南沢に新築、同11年には野火止(現野火止二丁目)に病弱児童生徒のための東京府立久留米学園、同年に小山(現氷川台一丁目)には自然体験の道場として東京府豊島師範学校の成美荘が開校されたの

です。このように昭和初期にはさまざまな教育施設が久留米村に集中し、久留米村はあたたかも園村のような様相を呈していました(地図1)。

その主な要因として、当時の久留米村は、純農村地帯でありながら、川や緑に恵まれ、変化に富む豊かな自然と比較的平坦な土地が広がり、さらに武蔵野鉄道(現西武池袋線)で池袋から約30分という交通の利便性の良さを合わせ持つ地域であったことが考えられます。女子教育のための浄牧

《浄牧学園女学校と自由学園》

浄牧学園女学校 当時遅れていた女子教育に光を当てるため昭和4年(1929年)に浄牧院内に高等女学校として創立されたのが浄牧学園女学校です。浄牧院や個人の寄付金と授業料で運営され、定員は70名で近村からの通学者もありました。2年制で、国語・数学・理科・歴史などの他、農芸・裁縫の実践的な科目もあり、農産品や手芸品は販売されて学校経費に充てられました。また、今の短期大学に相当する全寮

学園女学校、規模の大きな自由学園、広い平坦地が必要な拓殖大学総合運動場、健康に良い環境が必須の府立久留米学園、林間学校の性格を持つ豊島師範成美荘と、さまざまな要件を満たすことができたのが当時の久留米村にはあったことが分かります。

その後も、時代背景は異なりますが、昭和16年(1941年)に前沢(現滝山四丁目)に早稲田大学久留米道場、同18年に久留米青年学校内に東京府青年学校女子教員臨時養成所が開校されています。制の浄牧女子工芸学校も併設され、東京近郊を中心に全国に門戸が開かれていました。自由学園創立者の羽仁夫妻も時折来られて、親交を深められたといわれています。残念ながら女子学校は昭和13年(1938年)に閉校となり、洋風の瀟灑(しょうしゃ)な校舎が残っていましたが(写真1)、昭和53年(1978年)の火災により焼失してしまいました。

自由学園 学園町一丁目にある自由学園は、敷地中央を立野川が流れる市内でもひとくきわ緑の豊かな環境に併設された診療所は、社会事業として医療機関に不便であった久留米村に大きく貢献しました。また、昭和11年(1936年)には、敷地内において久留米村で初めて縄文時代住居跡の調査が行われ、その後の歴史研究の端緒ともなっています。

かな環境のなかにあります。自由学園は大正10年(1921年)に羽仁もと子・吉一夫妻が雑司ヶ谷(現豊島区西池袋)に女子教育のため創立した私立学校で、フランク・ロイド・ライト氏が設計した校舎の明日館(みょうにちかん)は国の重要文化財として今でも保存・活用されています。

その自由学園がより自然の豊かな教育環境を求めて移転したのが久留米村南沢でした。昭和5年(1930年)に小学校が移転し、同9年には女子部校舎や講堂等の施設が完成して移転、同10年に男子部も加わり、3万坪に及ぶ敷地において新しい学園生活が始まりました(写真2)。

久留米村に建設された校舎はライト氏の弟子である遠藤新(あらた)氏が設計したもので、現在、初等部食堂・女子部講堂・男子部体育館などの5棟が「東京都景観条例」による歴史的建造物に選定されています。

自由学園の移転は、単に教育施設の開設にとどまらず、学園の南側に約7万坪に及ぶ分譲地を整備して現在の学園町の景観の基礎を作り、さらに、学園に併設された診療所は、社会事業として医療機関に不便であった久留米村に大きく貢献しました。また、昭和11年(1936年)には、敷地内において久留米村で初めて縄文時代住居跡の調査が行われ、その後の歴史研究の端緒ともなっています。

浄牧学園女学校や自由学園は久留米村の教育と文化に新しい風を吹かせ、その後のさまざまな教育施設の開設へと連なっています。(以下次号)



↑写真1 浄牧学園女学校(昭和初期撮影・「光の交響詩」より)



↑写真2 自由学園全景(昭和9年撮影・自由学園提供・「光の交響詩」より)

(本文は山崎 丈・市文化財保護審議会委員による) 詳しくは生涯学習課文化財係 ☎472・0051へ。